

筑北三村地域自立支援協議会 部会・プロジェクト議事録

| | |
|--|---|
| 部会・プロジェクト名 第1回子ども部会 | 開催日:令和7年5月26日(月) 時間:14:00~16:00 場所:ちくほくシャインカレッジ |
| 参加者・構成機関名(6名参加) | |
| 筑北村子育て支援センター(太田) | 麻績村教育委員会(高野) |
| 筑北村教育委員会教育支援室(神谷) | ちくほくシャインカレッジ(升田) |
| 療育センターあづみの(奥永) | 事務局(藤澤) |
| 次第 | |
| 1.部会長について | |
| 2.昨年度のふりかえり | |
| 3.今年度テーマ | |
| 4.学習会開催に向けて | |
| 5.年間予定 | |
| 次回予定 | |
| 8月6日(水) 10:00~12:00 学習会 12:00~12:30 学習会振り返り | |

会議内容

1.部会長について:

麻績村教育委員会の榎本岳人保健師が部会長として選出されたが、本日は欠席。

2.昨年度のふりかえり(太田前部会長)

- 第1回は年間テーマの検討。子どもの居場所、社会資源のしおり、教育と福祉の連携等。
- 第2回は研修の報告や三村で不登校児が多いことが出され、シャインカレッジの取り組みなど多様な学校でなくても学べる場等の意見交換を行った。
- 第3回は神谷哲彦氏を講師に先生としての経験等からの学習会。支援者がどのように子どもに向き合うか等の学習と意見交換が行われた。令和7年度、神谷哲彦氏の学習会を開催予定とした。

○意見交換

- 教育と福祉の連携の取り組みが難しい。アプローチも異なることを感じる。
- 事業所に筑北中の教員の見学があった際、「(事業所の)見学にも敷居が高かった」と言われ、思った以上に連携の難しさを感じた。事業所の立場として、フラットな関係づくりをしていけたらと思う。
- 村内に一定数の不登校児がいる。食事も摂らずゲーム等で外出しない。学校も困っている。
- 「あるふ」が数十年間あったが無くなり、支援者支援の相談ができなくなってきた。
- 学校から不登校児を放課後等デイサービスや日中一時事業にお願いしてみて貰えないかと言われたが役割が違う。一人ひとりの状況が異なるので難しさを感じている。
- 福祉サービスが充実すると学校で行う役割等のバランスが崩れることがあり、双方がしっかりとやっていくことが肝要。
- 教育と福祉の連携も大事だが、母子保健の時期の健診等で見通しを持つカリキュラムがあると保護者には入りやすい。同様に教員や保育士にも年代の発達の見通しがあるとよい。保護者や祖父母、保健関係者への情報も大事。
- 保護者を含めた会議を行う機会が増え、保護者に入らうことの大切さを感じている。悩んでいること、できてきたことを共有する。それぞれの立場があるが、同じ方向を向いていることや環境調整を関係者も含め共有をしていく。
- 行政や事業者である垣根を超えて顔が見える場で話し合えたり相談し合えるのがよい。考える方向性を一緒にし、支援の本質に立ち返ることが学習会で共有できたらよい。
- 多様な育ちと居場所、育ちを待つ間の関り方がある。医療で「家に居るのでいいじゃない。」と言わ

れたり面談を重ねても状況が変わり難いことがあるが、心の居場所や育ち、その待ち方が大事に思う。

3. 今年度のテーマ

- ・ 教育と福祉、保健との連携
- ・ 多様な育ちと関り方、居場所

4. 学習会開催にむけて

- ・ 学習会を通し、学校との連携を図るために目的をはっきりしていないと先生方の参加し難い。今回の学習会は学校へは案内にとどめ、来年度は各教育委員会に参加のお願いができるようになる。
- ・ 特別支援コーディネーター会が三村であり、校長、特別支援学校、行政が参加し、年に3回開催されて学習会を行っており連携ができたらよい。
- ・ 特別支援コーディネーターが部会に誰か一人でも参加して貰え、学習会や協議会について広めてもらえるとよい。
- ・ 学校にも保育園にも育ちがテーマの研修はニーズがある。今回は部会主催で学習会を開催し、関係作りから始める。

日時: 8月6日(水) 10:00~12:00

会場: ちくほくシャインカレッジ eSportsルーム

申込: 事前申し込みおよび当日参加可

主催: 子ども部会

広報: 協議会構成員へお知らせ、各構成員からの教育委員会・保育園等への声掛けとチラシ配布

内容:「自立と自尊感情を念頭に子育て・地域づくりを考える」

(昨年第3回子ども部会と同様の内容)

講師: 神谷哲彦氏

5. 年間予定

第2回 8月6日(水) 10:00~12:00 学習会 12:00~12:30 学習会振り返り

第3回 12月24日(水) 10:00~